



大地震報告書 (山口県文書館所蔵)



御三霊様御事蹟御編集掛日記  
(山口県文書館所蔵)



密局日乗  
(山口県文書館所蔵)

|             |   |
|-------------|---|
| 発生年月日       | 嘉永7/安政元(1854)年11月5日(新暦12月24日)午後4時頃  |
| 震源          | 南海トラフ   |
| マグニチュード(推定) | 8.4   |
| 各地の震度(推定)   | 震度6強又は6弱相当: 高知、徳島、兵庫、和歌山各県の沿岸部など<br>震度5弱相当以上: 四国を中心に九州東部から中国地方、近畿地方の西部<br>(宇佐美ほか(2013):『日本被害地震総覧 599-2012』, 東京大学出版, 694pp.)による)   |
| 被害の規模       | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「大地震報告書」によると、萩藩領内で11月4日に小さな地震が起こり、5日に大きな地震に襲われ、その後も余震が続いたことが分かる。地震による被害は次のとおりである。 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 都濃郡末武下村(現下松市末武下)では高札場の玉垣が崩れ、米蔵の壁に割れ目が入り、花岡八幡宮(現下松市末武上)の石灯籠4基が倒れる被害が出た。</li> <li>● 台道村(現防府市台道)・名田島村(現山口市名田島)では干拓地の土手が割れた。</li> <li>● 平生村(現平生町)・中野開作(現宇部市中野開作)などの瀬戸内海沿岸で液状化現象が起こった。</li> <li>● 上関代官から5日夜の干潮時に180cmの津波が報告されている。</li> <li>● 嘉万村(現美祢市秋芳町)の弁天池では、地震後に湧水が濁り、水位が下がった。</li> </ul> </li> <li>■ 「密局日乗」や「御三霊様御事蹟編集掛日記」には、萩城下でも被害があり、米屋町の町屋一軒が大きく西に傾き、清水寺の本門の片柱が30cm程度地中に沈んだと記されている。</li> <li>■ 「御蔵本日記」には、都濃郡東豊井村(現下松市東豊井)妙法寺では、地震により台所の屋根が釜場に落ちて火事が起きたことが記されている。</li> </ul> |
| 被害の特徴       | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 嘉永7年/安政元(1854)年11月4日の午前9時頃、駿河湾・遠州灘・熊野灘の海底を震源とする安政東海地震(マグニチュード(推定)8.4)が発生し、約32時間後の11月5日午後4時頃に、紀伊水道から四国沖の海底を震源域として安政南海地震が発生した。</li> <li>■ 山口県の瀬戸内海沿岸では最高1.8mの津波が押し寄せ、南海トラフから350km以上も離れた萩市で家屋の倒壊などの被害がでた。</li> </ul>  |



あんせいなんかいじしん  
**安政南海地震**では、山口県にも約1.8mの津波が来たんだ。  
 つなみ  
 海の近くにいるときは「地震がおきたらすぐに高い場所に避難する」という心の準備をしよう。  
 ひなん じゆんび

## 関係する石碑



すおう おおしまちょうとの ゆうごう とのにゆうごう あんせいなんかいじしん つなみ どうたつ きねんひ  
 周防大島町外入郷には、安政南海地震の津波が到達したという記念碑があるよ。

### 【祠と安政南海地震津波到達碑】

とのにゆうごう

外入郷には、安政南海地震による「大津波が大歳神（田んぼの神様）の祠がある小山の下の畑までの近くまで来た」という言い伝えがある。

平成 25 年 8 月には、外入自治会及び有志により、この言い伝えを風化することなく次世代へ継承していくため、祠のある地に「安政南海地震津波到達碑」と「説明版」が設置された。



祠と安政南海地震津波到達碑



白木漁港（外入）  
 地理院タイルを加工して作成

## トピックス

### — 周防大島町立城山小学校の取り組み —



すおう おおしまちょう つなみ すおう おおしまちょうりつ  
 周防大島町には、津波が来たという言い伝えが各地に残っていて、周防大島町立  
 城山小学校では、周防大島各地に伝わる津波伝承を防災教育に活用しているよ。

周防大島町には、津波襲来の言い伝えが各地に残っていることから、城山小学校では「津波伝承のお話を聞く会」を開催して周防大島各地に伝わる津波伝承を発見・継承している。また、地震津波への備えを広めるため「ぼうさいかぞえ唄」を発表している。

#### ぼうさいかぞえ唄

|         |         |       |         |         |        |
|---------|---------|-------|---------|---------|--------|
| ひとつ     | ひとつよに   | つたえたい | ふたつ     | ふるさと    | ふるえるひ  |
| さんてん    | いちいち    | おもいだせ | よつつ     | よこゆれ    | ながいとき  |
| いつつつ    | いっとき    | みをかくせ | むつつ     | むかえ     | たかいとこ  |
| なーみは    | よんばい    | さかのぼる | やつつ     | やめとこ    | ひきかえし  |
| ここのつ    | このみも    | てんでんこ | とーどけ    | このこえ    | せとないかい |
| ひーびけ    | このうた    | にしにほん | ようじんせえ  | ようじんせえ  |        |
| はんじょうせえ | はんじょうせえ |       | はんじょうせえ | はんじょうせえ |        |

#### 【タコぎし】

棕野には、棕野本川を遡上した津波で運ばれた蛸が、石垣に張り付いていたという伝承が残っていることから、「タコぎし」と呼ばれる地名がある。

され 佐連には、「1854 年のことだと思うが、佐連を襲った大津波で、当時の佐連集落の 6 割がやられた」という言い伝えがある。



タコぎし



地理院タイルを加工して作成

平野鎌田には、「大津波が押し寄せて家ごと流された」「鎌田の家で糸車を回していたら、糸車ごと津波に流された」という言い伝えがある。

おおつみ おつみ 大積又は小積には、「船が浜から離れた田に打ち上げられた」という言い伝えがあるんだ。また、小積には 6～7m の津波の言い伝えがある。

船越には、「津波で牛が流された」「海岸の石垣が全て流された」という言い伝えがある。

下田には、「津波は、こんな高潮のようなものではない。だから、津波が来た時にはこの山に逃げ上がれ。」という言い伝えがある。